

L6 LINK™



システムセットアップを簡略化する革新的なデジタルオーディオ伝送

L6 LINK™はLine 6が開発したデジタルオーディオ伝送の規格です。AES/EBUケーブルを用いて高品位な音声を伝送することはもちろん、スマートミキシングシステムStageScape M20dとパワードスピーカーStageSourceシリーズを接続することで、ステレオ信号をパンで振り分け、スマートスピーカーモードの調整やクロスオーバーの設定を自動的に行うなど、システムの最適化を自動的に実施し、セットアップを大幅に簡略化します。

主な特長と仕様

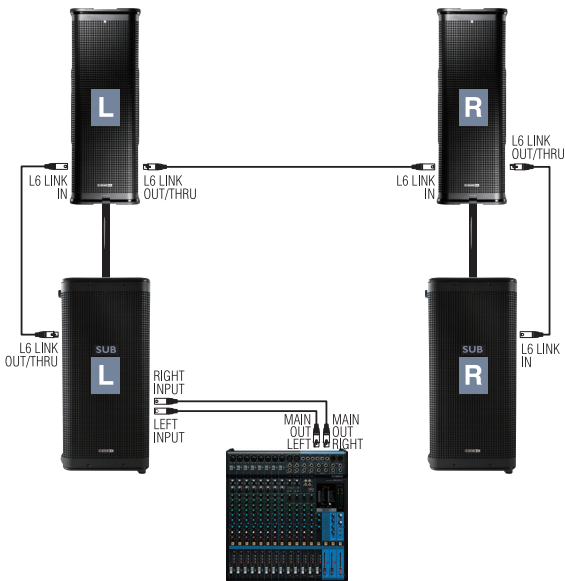
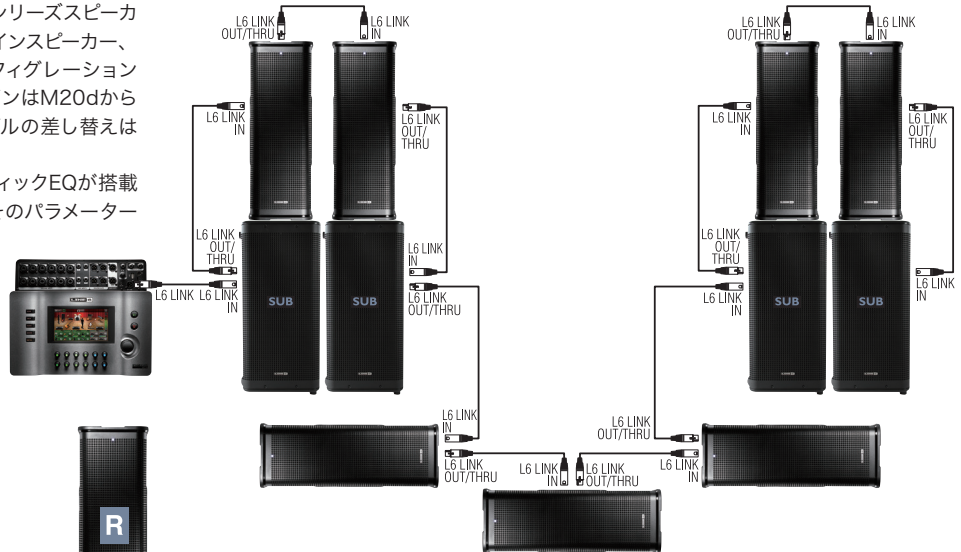
- L6 LINK™経由で接続したStageScape M20dとStageSourceシリーズは、小規模なPAシステムからメインPAスピーカーとサブウーファー、モニターなどで構成される大規模コンサート・システムまで、幅広いスケールを容易にカバー。
- ネットワーク上のすべてのスピーカーのチャンネル・アサインは、M20dのタッチスクリーン・インターフェースからマニュアルで変更することが可能。
- 接続可能台数 : フルレンジモデル(L3t/L3m/L2t)×9台+サブウーファーモデル(L3s)×9台
- 量子化ビット数 : 32bit
- サンプリング周波数 : 48kHz
- ケーブル : AES/EBUケーブル
- 伝送距離 : 各機器間は最大15m

システム例 1 StageScape M20dを使用したライブシステム

StageScape M20dとStageSourceシリーズスピーカーをすべてL6 LINK™で接続すると、メインスピーカー、モニタースピーカーなどのシステムコンフィグレーションが自動的に行われます。スピーカーアサインはM20dから変更することも可能です。その際、ケーブルの差し替えは必要ありません。

また、StageSourceシリーズにはグラフィックEQが搭載されており、StageScape M20dからそのパラメーターをコントロールすることも可能です。

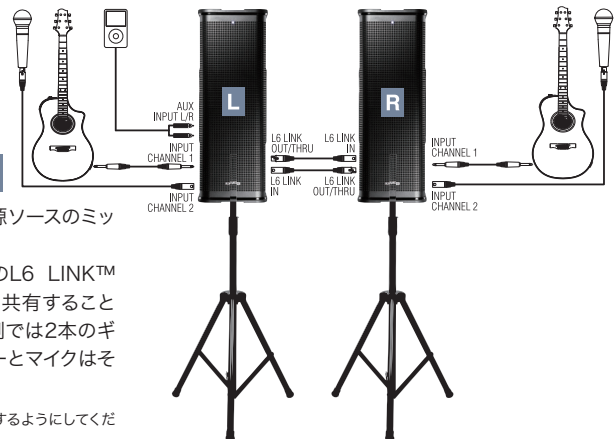
*StageSourceシリーズスピーカーの内蔵グラフィックEQのパラメーターコントロールにはStageScape M20dが必要です。



システム例 2 サブウーファーを使用したライブシステム

StageScape M20d以外のミキサーとStageSourceシリーズスピーカーを接続する場合、L6 LINK™を用いることで、ケーブルの接続、設定を簡単に完了することができます。

ミキサーのメインアウトをL3sのLおよびRのインプットに接続し、その後L3sのL6 LINK™アウトからL側に設定したいフルレンジモデルへ接続、そしてR側へと順にスピーカーを接続していきます。これだけで、接続されたStageSourceシリーズスピーカーは自動的にL、Rが設定されます。



システム例 3 スピーカーのみで完結するシンプルPAシステム

L6 LINK™を使用することで、StageSourceシリーズスピーカーは、接続した音源ソースのミックスができます。(L3sを除く)

例えば、2台のL3tを使用し、それぞれをL6 LINK™でループ接続(各スピーカーのL6 LINK™ Inからもう一方のL6 LINK™ Outへ接続)すると、それぞれのスピーカーの入力を共有することができます。これにより、システム合計最大10インプットが入力できます。左図の例では2本のギター、2本のマイクに加えて、2台のMP3プレイヤーを同時に使用できます。ギターとマイクはそれぞれセンターに定位し、MP3プレイヤーは自動的にステレオで出力されます。

*L6 LINK™を接続する場合、最初に接続されたスピーカーが自動的にLと認識されます。必ずLから接続するようにしてください。StageScape M20dが接続されている場合は、LとRの変更が可能です。
*それぞれのスピーカーがL、RのどちらになっているかはリアパネルのLEDで確認することができます。